

---

イケダユウコさんが20年暮らした関西から、両親のいる鹿児島へ移ったのは今年のはじめ頃。3月、今度の個展の打ち合わせのために鹿児島まで出向くと、「前は毎日でも絵を描いていたかったけれど、今は毎日絵を描かなくてもよくなったんです」と困ったことを話しはじめた。植物や動物、自然を題材に描くことの多い彼女は、身近に自然がなかった関西ではわざわざ自然の多い場所へ行ったり花を買ってきて絵を描いた。それが鹿児島の家では、周りは自然だらけなのだという。「満たされすぎてしまっているのかな」と笑う。絵は、体と気持ちのバランスをとっているものでもあったのかもしれない。それは本当に彼女の「一部」であるということ。

---

「前は、そのときの自分を見てもらいたいから過去の作品には興味がなかったけど、今は前のも大事だと思えるようになったんです」という。変わっていくんだなあ、彼女の話聞きながら思っていた。そういえば前に話していたっけ。「変わっていくのは楽しい。なるようにしかなら

ないし、なるようになるっていつも思ってるから。変わるのはいいことだし、変わっても別にいいやって思う。日々が進んでいるから、絵もそのときのが出て、変わっていく」。

---

「展示のタイトル。いま、どこ。いま、ここ。っていうのはどうですかね」。それは予想していなかった言葉だったけれど、ハッとして、すぐに腑に落ちた。環境が変わって、気持ちが変わって、絵との向き合い方が変わって、これからどこへ向かうのかもどこでまた暮らすことになるのかわからないけれど、今、ここにいるということ。とても前向きな言葉だと思った。今のわたしにとっても、ぴったりの気持ちだった。

いま、どこ？

どこへ行くだろう。どうなっていこうだろう。きっと変わっていくね。楽しみにしよう。彼女はそれでも日々ごはんを食べるように、歌うように、呼吸するように、変わらず絵を描いているのだと思う。おばあちゃんになっても。



イケダユウコさんと見た鹿児島の自然。